

成果報告書

(地域部活動推進事業)

琴平町立琴平中学校

所在地	香川県仲多度郡琴平町五條661番地1
運営主体	琴平中学校吹奏楽部
事業目標	吹奏楽部において、専門的スキルを持つ講師を招聘し、休日の部活動において指導いただくことにより、生徒の技能向上を図るとともに、教員の働き方改革を推進する。また、地域部活動への完全移行に必要な条件について実践を通して洗い出すことを目的とする。
団体・組織等の連携	<p>The diagram illustrates the following relationships:</p> <ul style="list-style-type: none"> 琴平中学校吹奏楽部 (School Band) and 琴平中学校吹奏楽部応援隊 (Support Team): Connected by a double-headed arrow labeled "指導" (Guidance) and "謝金" (Thank-you money). 琴平中学校吹奏楽部 and 琴平中学校吹奏楽部応援隊: Both are connected to 香川県教育委員 (Education Committee) via arrows labeled "連携・協力" (Cooperation) and "進捗状況の把握、検討委員会の開催" (Monitoring progress, holding a review committee). 琴平中学校吹奏楽部 and 琴平中学校教員(顧問) (Teacher/Advisor): Connected by an arrow labeled "連携・指導・助言" (Cooperation, guidance, advice). 琴平中学校教員(顧問) and 琴平中学校(校長、教頭) (School/Principal/Head): Connected by an arrow labeled "連携・指導・助言" (Cooperation, guidance, advice). 琴平中学校(校長、教頭) and 琴平町教育委員会 (Town Education Committee): Connected by an arrow labeled "指導・助言" (Guidance, advice).
活動場所	琴平町立琴平中学校 音楽室等
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・土日を中心として、部活指導をサポートしてもらう。月に2~3回を目安(定量的) ・専門的な指導で、生徒たちが自ら音楽的な課題を見つけ、解決できる力をつけられるようにする(定性的) 顧問の負担を軽減し、働き方改革につながるよう実施する。

○本事業による成果

- ・部活動指導には、目の前の技術指導だけでなく、多くの事務処理等が存在する。これまでは部活動の時間中は指導のみで、部活動指導後にそれらの業務を行っていたが、外部指導者が入ることで部活動中にその時間がとれるようになったため、部活動前後の時間が大幅に短縮できた。(数字上にはあがっていないが、この時間短縮は本当にありがたい。)
- ・これまで専門外の楽器を指導するにあたり、自分の時間をずいぶん割いて勉強をしていたが、なかなか習得することはできなかった。しかし、専門の講師に来ていただいたおかげで、生徒たちの効率的な練習を生み出すことができるとともに、自分の時間にもゆとりが生まれた。また、効率的な練習ができるおかげで、全体の練習時間もへらすことに成功した。
- ・コーディネーターに入ってもらったことで、今の演奏を聴き、現状を分析したうえで、適切な指導者を紹介いただき、効果的に配置することができた。
- ・外部からの指導者が入ることで、生徒たちが自らの学びとしてとらえ、自主性が増した。それは部活動だけでなく、生徒会活動や委員会活動、学級活動などへも波及していった。
- ・生徒たちは、正しい知識や技能を知ったことで、自分たちで練習のメニューを組み立てることができるようになった
- ・顧問の休日における指導時間…144時間、115時間(昨年度より86時間削減)
コーディネーター…2時間(1人) 講師…94時間(7人)

○児童・生徒への指導に関する工夫

・技術面では、十分に生徒たちが満足する指導ができています。慣れている講師は、生徒たちの個性を見抜き、それに見合った指導ができています。顧問とそういった情報交換も密に行っている。

・生徒たちの声より

専門的な指導で分かりやすく教えてくれた。基礎練習のバリエーションを増やしていただいた。

悪い癖を見つけて直して下さったのでとても吹きやすくなったし、運指がとてもスムーズになった。

楽譜まで配ってくれて、基礎をしっかりとくれるので、準備が整い、スキルがつく。

細かいところまで分析して教えてくれ、初めて学ぶことも多く、そこから知識が広がる

打楽器の間違った使い方やバチ等の持ち方を指摘されて正しく使えるようになった。難しいリズム譜の読み方を教わり読めるようになった。

和音について詳しく教えてくれ、ハーモニーの仕方がわかった。

自分の音の特徴を教えてくれて、高い音を安定させてくれた。

○運営上の工夫

・指導者の依頼については、コーディネーターのアドバイスをもとに、顧問教員が個別に依頼および交渉をしたため、コミュニケーションは充分に図ることができ、生徒たちの個々の技術指導だけでなく、心のケアも充分にできたと言える。

・吹奏楽の大きな大会の2つが吹奏楽コンクールおよびアンサンブルコンテストであるが、どちらも学期末の忙しい時期に重なるため、学校業務との両立を生むために時間的なゆとりが欲しい。そのため、この時期に集中的に呼ぶことで教員たちの働き方改革をふまえた時間確保が実現しやすくなった。

・講師の先生方も同時期に忙しくなるため、土日ではなく平日に来ていただくケースもあった。結果としては、平日業務の軽減化にもつながった。

○継続的な運営に関する課題

・これまでの経歴等を踏まえて、教育的な観点から人選を行うと、人によっては依頼が重なりスケジュール調整が難しくなった。練習計画、日程調整等の負担は大きく、指導者を招く期間が偏ってしまった。

・人にもよるが、繁忙期等もあり、年間を通してコーディネーター業務をしていただくのが難しい。そういった人物を各校に1名以上確保するのも大きな課題である。

・人材確保のために連携を図るべき本県の地域民間企業、文化芸術団体の有無について情報が無い。また、そのような団体に人材派遣の依頼をすると料金設定が高額になると考えられる。

・地元中学校を活動場所として行う場合、校舎及び教室の開錠・施錠が必要になるため、教員不在での活動は現実不可能である。また、他の施設で活動するのであれば、打楽器等の大型楽器の運搬や騒音対策等、より多くの課題が出てくると考えられる。

・一番の課題は人材確保である。今回、人材を県内各地より探して来ていただいた。今後、県下の各校がこの取り組みを始めたら、有能な人材から取り合いになり、十分な人材確保はできないと考えられる。文化部にも人材バンクが必要であり、どの地域にどのような人材がいるの情報が重要。学校や地域単位のボランティアや公募だけでは人材確保困難である。

・また、部活動が教育活動の一環である以上、指導者には教育的な観点での認識や施設利用の理解及び研修等が必要になる。

・琴中吹奏楽応援隊として、専門的指導、指導者派遣の計画、会計事務等を行っていただく計画であったが、会計事務までではお願いすることは難しかった。組織として長続きできるような人材の確保が求められる。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

学校部活動が学校教育活動の一環である以上、地域移行するにあたり、指導員や応援隊を編成する人材については教育的観点での共通認識、施設を利用するための理解や研修等を定期的に行う。

琴中吹奏楽応援隊には、①音楽的な専門指導者、②指導者派遣の計画ができる人物、③会計事務等ができる人物を入れ、組織を編成する。長期的に係わってくれる人材を確保する。

ただし、一度にすべてを指導員にゆだねるのは困難であると考えられるため、学校の教員と外部指導員との並行で進めていき、段階的に地域移行していく。

募集方法	部活動の中から参加者を募る。
指導者	教員OB 2名、連携団体からの実演家8名
移動手段	徒歩・自転車、保護者送迎
活動費用	講師謝礼 1,600円/時 運搬費 30,000円/回 使用料 30,000円/回
スケジュール	基本活動 月2～3回 2～3時間/回 7月吹奏楽コンクール、12月アンサンブルコンテスト に向けては回数が増える
保険加入等	特になし

【活動の様子（写真添付）】

